

緑区教育研究会

1 研究主題「コロナ禍の中でもできることを」

2 研究主題について

令和2年度から続くコロナ禍での区研究会のスタートとなったため、緑区では引き続き「コロナ禍の中でもできることを」を研究主題において研究を進めてきた。まずは、感染症対策のため5月からの各研究会は「原則各校1名参加の体制での研究会」とした。また、令和2年度中止となった区一斉授業研究会については、できる限りの感染症対策を施した上で「工夫して実施していく」方針でのスタートともなった。研究会の大きな転機が訪れたのは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって分散登校となった9月に導入された、児童一人1端末を活用した「オンライン学習」である。教員にとっては短時間でオンライン化を進めなければならないという負担感も大きいものではあったが、端末を配られた児童にとっては新たな可能性が大いに感じられるツールとなった。9月以降は、端末のロイロノートの活用を含めた授業改善の在り方も、各研究会の話題となっていた。緑区では、この1年間、9月の大きな転換期も含めて「コロナ禍の中でもできることを」を模索し続けた。

3 研究方法（コロナ禍で工夫したこと含めて記入）

- ・原則各校1名の参加体制ではあったが、指導主事等の講師を招いての講演会・研修会については、広い会場を用意して、参加人数の上限を緩和しての開催とした。
- ・Zoomでの開催に加えてGoogle Classroomに研究会のクラスを作成してMeetで開催するなど、選択肢を増やししながら「学びを止めない工夫」を続けていった。
- ・11月の区一斉授業研究会は、人数制限は設けたものの集合形態で実施することができた。1月の区一斉授業研究会については、まん延防止重点措置の発令となったため、全教科領域、オンラインで授業を配信（事前録画した授業の配信も含む）した上で、ZoomやMeetでの事後研究会を実施した。

4 年間の主な活動（事業）報告

- | | |
|-----------------------|-----------|
| (1) 緑区小学校教育研究会紙面総会 | 8月 |
| (2) 授業を伴う授業研究会 | |
| 区一斉授業研究会（A研） | 11月17日（水） |
| 区一斉授業研究会（B研） | 1月26日（水） |
| (3) 読書感想文審査会 | 9月22日（水） |
| (4) 児童書写展 | 10月～12月 |
| (5) 児童巡回絵画展 | 10月～2月 |
| (6) 区スポーツ交流会 | 11月～12月 |
| (7) 読書感想画審査会 | 12月15日（水） |
| (8) 緑区小学校教育研究会年度末紙面総会 | 3月 |

5 研究の成果と課題

令和3年度の研究の成果と課題には、区一斉授業研究会に関しても多く記載したい。それは、令和2年度の区一斉授業研究会が全て中止となっているからである。令和3年度の区一斉授業研究会は、正に「コロナ禍の中でもできること」の中心となるからである。

〈成果〉

- ・図画工作科では一斉授業研究会を、感染症対策をしながら、体育館という広い場所で、教員も「集

合形態」の授業研究会を実施できた。体育館で、子どもがいきいきと造形活動に取り組めるなど大きな成果を見ることができた。

- ・感染症対策として、一斉授業研究会の授業視聴・全体会をオンラインで行った。部会に分かれて協議を行うことは各学校1人の視聴としたため取りやめた。部員には、紙面に気づいたことなど書いていただき後日集めて研究材料とした。事前に授業校と入念な打ち合わせが必要ではあったが、このコロナ禍の中、工夫して運営することができた。
- ・9月に予定されていた読書感想文審査会が感染症予防のため、集合開催が不可となった。市図書館研究会から開催例の提示があったので、それに沿って事前に代表者名簿の作成、審査担当校に作文の送付、集計の上 Zoomでの代表決定と、コロナ禍中できうことはできたと振り返っている。
- ・行事研究会は、Zoomによるオンライン開催の多くのメリットを感じる1年となった。主幹教諭が多い行事研のメンバーにとって、移動時間がかからないメリットは大きい。また、これまでの紙ベースの資料ではなく、データとしてのやり取りができるので、いつでもデータにアクセスしてやり取りができる。Zoomは、基本上限40分なので、協議内容を精選して話し合うようにした。行事研究会としては、オンラインによる研究会のデメリットを感じることはなかった。

〈課題〉

- ・オンライン上での実践提案や指導案検討は、意見を出しづらい感があり、話合いが深まらない難しさを感じた。
- ・一斉授業研究会の授業のオンラインでのリアルタイム配信を試みたが、上手く視聴できない部員が半数ほどいた。ICTに関するスキルも高めていかなければならないと感じた。
- ・1月の区一斉授業研究会では、2つの教科が全校臨時休業等で中止となった。後日、授業を録画して、翌月の研究会でその動画を視聴の上で意見交換する等したが、次年度からも感染症等で「中止」となった場合の扱いは、事前に検討しておいた方が、時間をかけて準備する授業者・会場校のために良いと考える。
- ・コロナ禍であり、毎月の区研の参加も各校1名と制限される年となった。それを契機に、その1名も出席しない学校がある月があった。新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、集合すること自体を控える教員がいることも踏まえて研究会の運営をしていく必要を感じている。

昨年度に続くコロナ禍での研究活動、緑区では「工夫しながら学びを止めない」を合言葉に研究を続けてきた。11月・1月の区一斉授業研究会では、録画して視聴、Google meetでの生配信、実際の授業参観と、教科や会場の状況によって工夫した授業研究会を実施することで大きな成果を見ることができた。特に、1年目・2年目のコロナ禍から教員人生がスタートした会員にとっては、区単位での共同研究の意義を実感できる貴重な機会となった。

また、感染状況が落ち着いている11～12月に、近隣校でブロックを組み、5年生のスポーツ交流会を実施した。Tベースボール、フライングディスク、ボッチャ等の競技に取り組み子どもたちの多くの笑顔を見ることができた。「試合が終わって、勝っても負けても、“ありがとうございました”と言えたことが良かったです。」「今日のために考えてくれた先生方、実行委員に感謝します。それに、遠くから来てくれた〇〇小にもお礼が言いたいです。」やはり、子どもたちの達成感や心の成長が、私たちの研究を進めていく原動力になることを、改めて実感できたスポーツ交流会となった。緑区研究会はこれからも、子どもたちのため、そして私たちのために、工夫しながら研究を進めていく決意である。

結びに、本研究会の運営にご尽力いただきました教職員の皆様と、ご指導くださいました講師の先生方、横浜市教育委員会の皆様に心よりお礼申し上げます。